

今年は沼津から発進！

～平成25年度静岡県審判員・記録員伝達研修会～

平成25年2月23日（土）24日（日）の2日間に渡り、沼津市片浜地区センター他において、標記研修会が開催された。この伝達研修会は”球春前の風物詩”。平成25年度のスタートにあたり、日本ソフトボール協会主催の中央研修会および東海地区の研修会などを経て、静岡県下各支部の代表者に伝達を行うもの。研修に先立ち行われた開講式では、主催者である静岡県ソフトボール協会・栗原貞秋会長らが壇上に立ち、各支部などにおける審判員・記録員の指導・育成に対し労をねぎらうと共に、大会運営への協力はもとより、個々の体調管理の重要性などについても言及。引き続き行われたルール改正の研修では、故意四球、得点差コールドゲームに関するものがポイントとして説明され、真新しいルールブックに早速マーカーを引く受講生も多く見られた。初日はこのあと審判、記録に分かれ、それぞれ座学での研修を行った。

好天に恵まれた2日目、審判員は桐陽高校グラウンドで実技研修を開催。基本動作の確認のあと、新しいストライクのジェスチャー、コールの練習を行った。午後は地元の高校生チームの協力を得て、実戦形式で研修。「ファウル」のコールなどを繰り返し練習し、本番へ向けたイメージを新たにしました。

一方の記録員は、スコアカードとにらめっこ。選手交代や集計・点検、戦評の点検・校正、打球判定などについて多くの時間を費やし、共通の認識のうえで実際の記帳・点検・PC入力等にあたるための実技演習を繰り返した。また、休憩時間を利用し、第3種記録員認定講習会や事前研修などで活用可能なDVDや、記録入力ソフト『Windmill』の補助ソフト（どちらも県下記録員の手作り）などが紹介され、「静岡県が日本をリードする」姿が鮮明に映し出されたと言っても過言ではなさそうだ。

各支部の代表は、この2日間の研修内容を「消化」し、各ブロックや支部での研修に備えることとなる。名実ともに「日本をリードする静岡県」を目指し、理解力や指導力、現場力を試されるのはこれからだ。

